

# Peshawar-kai

# ペシャワール会報

ペシャワール会事務局  
〒810-0023 福岡市中央区警固  
2-1-17 ハイソミかげ803号  
TEL 092 (731) 2372  
FAX 092 (731) 2373

## No.128

2016年7月6日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 [peshawar@kkh.biglobe.ne.jp](mailto:peshawar@kkh.biglobe.ne.jp)



表紙絵 桑の実拾い／画・甲斐大策

「緑の大地計画」の仕上げを前に農村の荒廃が進み、飢餓人口が増え続ける 2015年度現地事業報告 中村 哲

2015年度会計報告 ペシャワール会事務局

機械整備工として十三年、満足しています ザイヌッラー

子供の頃からの思いが、中村医師と出会い具体化 浦田萁平

●カラー特集 ①ガンベリ試験農場／②主要排水路整備始まる

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

# 「緑の大地計画」の仕上げを前に 農村の荒廃が進み、飢餓人口が増え続ける

## 2015年度現地事業報告

それでも、多くの心ある人々が干ばつと食糧問題に目を向け始めたのは、この一年の大きな進展でした。次の段階は、良き訓練の場を提供し、如何にして他地域に希望を分かつかにあります。そのためには、やはり成就に近づいた「緑の大地計画」を確実に仕上げ、地域から流れを起こすことだろうと思います。進行する事態は生やさしいものではありませんが、私たちは絶望しません。神を信ずる者にも、信じない者にも、等しく恵みが備えられていることを知っているからです。

PMS 総院長／ベシャワール会現地代表 中村 哲

### 二〇一五年度の概況

#### 異常気象と洪水

二〇一五年七月中旬、アフガン東部全域が熱波に襲われ、五〇度を超える気温となった。七月下旬から八月初旬にかけてクナール河流域に集中豪雨が多発、クナール河、カプール河沿いの各所で氾濫がおきた。「記録的洪水」は、もはや珍しい現象ではなくなったように思われる。

最近の傾向は、異常高温、集中豪雨、河川の氾濫らが気まぐれで、かつてのように決まった季節に来襲せず、常に備えをしなければならぬことである。

二〇一五年度は、マルワリード・カシコト連続堰を除く全ての堰の改修が行われた。今後を予想し、河川周りの工事（堰と護岸）に機動部隊を常時置き、「緑の大地計画」全域に速やかに展開すべく、緊急事態に備えている。

#### 治安悪化と無政府状態

二〇一四年三月に始まった総選挙は、半年以上をかけて行われ、組閣を終えたのは、二〇一五年春のことであった。長い権力の空白のため、治安はいっそう悪化し



ガンベリ農場でナツメヤシ園の造成の着工式が行われた (2016年4月17日)

た。米軍約一万人が駐留を続けているが、改善の兆しが見られない。

二〇一五年は、スピנגガル山麓方面でIS（イスラム国）の動きが活発化し、ジャラバードを一時恐怖に陥れた。住民が自らタリバン軍と連合してこれを撃破したものの、外国勢の暗躍も絡み、混沌たる情勢が続いている。

欧州へ逃れる都市青年層が増え、大きな問題となっている。他方で貧富の格差が一

層拡大し、農民層は更に困窮している。飢餓線上にある者は年々増加、七六〇万人（二〇一四年・WFP）と伝えられる。

## PMS事業のあらまし

二〇一四年十月に始まったミラーン堰（ベストード第二堰）は二回の洪水期を経て、漸く完成しつつあるが、技術的に困難な地形で工事が進められ、新たな挑戦となった。しかし、これに伴って、同河川沿いに適した洪水対策（護岸法）がほぼ確立され、今後に明るい見通しを残した。

農地の乾燥化は依然として進行中で、外に危機感が高まった。ここに至り、PMSに対する事業評価に伴い、各方面でPMS方式の取水設備を採用する動きが高まり、将来の広域展開が日程に上った。

事態は次の段階へさしかかっている。ガンベリ沙漠開拓では、各方面の協力で合法的農地の貸与が成り、排水路網完成の見通しと相俟って、開拓が急ピッチで進む可能性が出てきた。職員の自給態勢が整いつつある。

### 1. 医療事業

一五年度の診療内容は別表の通り（別表

1）。

ダラエヌールのPMS診療所は対岸のJVC（日本ボランティアセンター）診療所とともに、ナンガラハル州から国際救援組織が消える中、地域で重きをなしている。

### 2. 灌漑事業

主な工事は別表2の通り。一五年度は将来の広域展開へ向け、準備段階に入った。「緑の大地計画」は、二〇二〇年までに計画地域（安定灌漑面積一六五〇〇畝、人口六五万人）を完成し、モデル・ケースとする予定である。

アフガン全国の耕地は三六〇万畝、そのうち灌漑地はわずか半数に過ぎず、それも減少していると言われる。近年の気候変化と戦乱が大きく関

与しているのは、これまで我々が述べてきた通りである。飢餓人口は、二〇〇〇年の四〇〇万人（WHO）から、七六〇万（二〇一四年・WFP）に増加し、深刻な状態を作り

出している。

灌漑地の減少は、決して技術的な問題だけではない。アフガン復興から十五年、干ばつ問題が余り重視されず、現地に適した方法の模索や、長期の取り組みが行われてきたとは言えないからだ。農業、灌漑、治水の取り組みは総合的かつ長期的なもので、地域の社会特性が濃厚に関わってくる。PMSの場合、日本の支えを背景に、住民と一体に仕事を進め得たことが、力になってきた。

特にベシャワール会からの継続的な支えが大きかったことは、疑い得ない。設計、施工、維持管理、改修、住民との交渉に至るまで、自在な動きが保障されてきたからである。このことは示唆的で、今後の広域

別表1 2015年度 診療数及び検査件数

国名	アフガニスタン	
地域名	ナンガラハル州	
施設名	ダラエヌール診療所	
外来患者総数	42,712	
【内訳】	一般	32,529
	ハンセン病	6
	てんかん	930
	結核	238
	マラリア	5,067
	外傷治療総数	3,942
入院患者総数	—	
検査総数	9,772	
【内訳】	血液一般	467
	尿	1,367
	便	1,902
	ハンセン病塗沫検査	0
	抗酸性桿菌	132
	マラリア	5,254
	リーシュマニア	271
	その他	379

別表2 PMSによる事業実績・取水堰 (2003~2015)

位置	事業名称	工事期間	事業内容	事業・灌漑地域		灌漑面積 (%)	事業費 (ドル)
				県・郡	村落		
①	マルワリード堰・用水路	2003-2010	取水堰・取水門・調節池・用水路(25km)・分水路・サイフォン・排水路・護岸(約2km)・防砂林・貯水池など	シェイワ	シェイワ、シギ、スランプール、ガンベリ、シエトラウ、カンレイ	3,000	16,496,529
②	シェイワ堰	2007-2008	取水堰・取水門・調節池・用水路(360m)	シェイワ	シェイワ	500	①に含む
③	シギ堰	2014-2015	取水堰・取水門・調節池・用水路(200m)	シェイワ	シギ上流域	600	324,109
④	カシコート堰	2012-2014	取水堰・取水門・用水路(1992m)・調節池・護岸(4.0km)	シェイワ	上カシコート、下カシコート	2,500	3,110,116
⑤	ベスード第Ⅰ堰 (カシマバード)	2011-2012	取水堰・取水門・調節池・用水路(280m)	ベスード	ベスード西部	2,500	1,239,679
⑥	ベスード第Ⅱ堰 (ミラーン)	2014-	取水堰・取水門・調節池・用水路(400m)・排水路(500m)・護岸(2.0km)	ベスード	ベスード東部	1,100	1,306,573
⑦	ベスード護岸堤	2010-2012	護岸(3.0km)	ベスード	ベスード東部 (クナール河沿岸)	500	1,631,188
⑧	タプー堰	2010-2012	取水堰・取水門	ベスード			
⑨	カマ第Ⅰ堰	2008-2010	取水堰・取水門	カマ	カマ 高地域	2,000	①に含む
⑩	カマ第Ⅱ堰	2010-2012	取水堰・取水門・調節池・用水路(1040m)・護岸(500m)	カマ	カマ 中低地域	5,000	651,116

展開でも、「地域中心」のスタイルを崩すことはできない。

◎ミラーン堰(ベスード第二堰)と対岸

二〇一四年十月に着工した本堰は、ベスード郡クナール河沿いの大半一〇〇畝を潤す重要なものである。しかし、これまでの斜め堰と地形が異なり、建設が難航した。一五年夏の洪水で大量の土砂が堆積した上、上流に分流が発生して、一時的に機能が停止した。

二〇一五年十月、大幅な設計の見直しを行い、翌一六年三月までに完成したが、新たな対応を迫られるものであった。もともとPMS方式の取水堰は、岩盤を背に安定した単砂州に置かれる例が殆どであった。ミラーン堰の場合、多列砂州の連なる不安定河道である上、激しい浸食に抗して軟弱地層に取水堰を置かざるを得なかった。

しかし、これによって技術的に新局面が開かれた。砂州を連結した堰造成、連続堤防と植生工を利用した河道固定、分流の処置、土砂吐きの適切な配置などで、ほぼ完成に近づいている。洪水期の観察を経て、一六年九月に竣工する。

分流の発生で冠水した対岸(コーティ、タラーン、ベラ、カチャレイ村)は、村落





洪水到来のミラーン堰。堰に接続する第3砂州 砂州を安定させるため剣山粗朶柵が試みられた（2016年5月24日）



増水したクナル河。ミラーン堰上流対岸では必死の護岸堤の高上げ工事が続けられている（2016年6月20日）

### ◎PMS方式（取水設備）拡大への準備

二〇一四年度の継続である。

一五年度は、FAO（国連食糧農業機関）が関与してミラーン堰付近の研修所設立が計画され、JICA関係者やアフガン政府の山田堰（福岡県朝倉市）の訪問が活発になった。関連機関の関心が高まったことを意味する。日本側では、山田堰土地改良区とベシャワール会（福岡）が協力し、訓練のための教材作成が進められた。

PMS側の方針を再度まとめると、

一、文化や地勢・気候の類似した東部アフガンを中心に、徐々に且つ確実に拡大。

二、実事業を継続しながら、その中で「土着の実戦部隊」を組織的に育成。

三、日本側事務局の機能を強化し、PMS事務所と一体化する。

四、中央集権的な方法でなく、地域中心、かつ住民の自主性を尊重。

以上が基本方針、かつ絶対条件である。ただし現下の不穏情勢を考慮し、「緑の大地計画」が区切りを迎える二〇二〇年頃までには態勢を整える。

可能性が十分あると思えるのは、PMS配下の作業員数百名（潜在的労働力を併せ

ると千名以上）、現場監督数十名が熟練工の域に達しているからである。地域でこのような熟練労働者と現場の技師を増やすことが大きな目標である。

### ◎緊急改修班の常設

近年、予期せぬ洪水が頻発し、その都度、護岸や堰の補強・改修が行われてきた。もとより河川周りの工事は竣工の公式通知から五年の観察期間を置き、自然の変化に応じながら強化する方針を採っていた。

だが最近、頻回の洪水が日常化し、各所で速やかな対応を迫られるようになった。一五年は、常設の班を置き、機動的に作業地全体にいつでも展開できる態勢をとった。

### ◎バルカシコート上流への関与

ミラーン堰対岸と共に、カシコートの更に上流側の調査と仮堰の建設が行われた。「マルワリードII」と排水路工事の見通しが立つ段階で、本工事が計画される。

### 3. 農業・ガンベリ沙漠開拓

#### ◎PMSガンベリ農場の土地問題解決

ガンベリ沙漠では、二〇〇九年用水路の開通と同時にガンベリ農場を拓き、PMS

の自給態勢を整え、用水路維持に役立てようとした。これが「自立定着村」構想である。その後土地所有をめぐる問題が発生し、居住地をベスード郡の一角に移動した。PMSでは合法的な土地の取得を目指し、難航の末に二〇一六年二月、アフガン政府と協力、開墾地二三五畝を農地として将来にわたり借用する契約が成立した。これによってPMSは、自立に向かって不動の位地を得た。契約は二〇年毎に更新され、PMSの解散がない限り継続される。排水路問題が解決した現在、急速に開墾が進むと期待されている。農場に至る交通路の整備とナツメヤシ園造成が日本大使館の草の根無償資金協力が進められている。ガンベリ記念公園は建設を終え、農業部

別表4 ガンベリ農園の収穫物

栽培	収穫量(kg)	備考
小麦	45,250	
米	17,410	
落花生	2,025	
ベッチ(豆)	428	播種の85%は緑肥として使用
ジャガイモ	1,750	
玉ねぎ	8,450	
西瓜	6,760	
サトウキビ	4,435	
アルファルファ	家畜の飼料と緑肥	
トウモロコシ	家畜の飼料と緑肥	
オクラ	多種の野菜を栽培中	
トマト		
カリフラワー		
他		

の事務所が置かれている。現在、「干ばつ・水問題」を訴える上で象徴的存在となり、二〇一五年度は国連機関やアフガン政府ら、公的筋の訪問者が増えた。農場では、果樹や穀類を中心に多様な生産が試みられている。畜産も拡大しており、モデル農場を目指して開墾が更に進んでいる。(別表4参照)

#### ◎資材生産工房

資材生産工房の移転が完了、ふとん籠、RCCパイプ、U字溝等の生産らが大きかりに行われ、育苗場の充実で、灌漑事業に必要な資材がほぼ自前で調達できるようになった。常時四〇名が工房で働いている。

#### ◎植樹

一五年一月〜十二月の植樹数は四六、二五〇本、大半が新設用水路沿いの柳枝工(約六〇%)とガンベリ農園の果樹、護岸工事に伴う樹林帯造成で占められる。一六年三月までの総植樹数は八八八、六九七本である(別表6参照)。

#### 4. ワーカー派遣・その他

現場に中村一名が常駐、ジャララバード事務所に鈴木・石橋の二名が赴いた(別表

7)。しかし、事務量が膨大となり、ベシヤワール会事務局内に「PMS支援室」が設置された。専属四名を置き、現地と密な連絡を取りながら業務を分担している。灌漑・農業事業は極めて長い年月を要する。今後、後続の育成を視野に、現地を支援していく。

#### 二〇一六年度の計画

二〇一五年度の連続である。

河川・用水路工事では、ミラーン堰建設を一六年九月までに完了、JICAとも協力して対岸コーティ、タラーン、ベラ、カチャレイの四カ村の復興に力を注ぐ。計画は「マルワリードII」とし、約八五〇畝、三万名が恩恵を受ける。(別表5参照)

本計画の意義は、「緑の大地計画」全体で両岸からのアプローチが可能になり、維持補修が極めて容易になることである。また、これまで培ってきたPMSの灌漑・治水技術(堰などの取水設備、用水路、護岸、河道固定、サイフォン、揚水水車など)が全て投入され、他地域展開への訓練の場所を提供できる。当面の最大目標である。

訓練所の設立はいまだ準備段階であるが、一六年度内には着工が期待される。なお、二〇二〇年までに完了が予定される。

他の計画は別表3の通り。何れも数年以内に機を見て開始し、各年度計画と並行して進められる。

#### 二〇一五年度を振り返って

最近PMSの「緑の大地計画」が注目を集めているのは、必ずしも喜ぶべきことではありません。アフガン農村の荒廃が更に進み、飢餓人口が依然として増え続けているからです。

それでも、多くの心ある人々が干ばつと食糧問題に目を向け始めたのは、この一年の大きな進展でした。次の段階は、良き訓練の場を提供し、如何にして他地域に希望を分かつかにあります。そのためには、やはり成就に近づいた「緑の大地計画」を確実に仕上げ、地域から流れを起こすことだろうと思います。

進行する事態は生やさしいものではありませんが、私たちは絶望しません。神を信じる者にも、信じない者にも、等しく恵みが備えられていることを知っているからです。

虚飾の時代です。利を得るに手段を選ばず、欺き、殺してまで目先の富を守ろうとする風潮が、世界中で目につきます。「近代」は実を失い、道義の上で既に廢類しま

## 【カラー特集】①ガンベリ試験農場



ガンベリ農場の麦刈り（2016年5月）



田植えが始まったガンベリ農場（2016年6月）

## ②主要排水路整備始まる

マルワリード用水路がガンベリ沙漠に到達した2008年から延々と続けられている排水路整備。各村の同意を得ていよいよ主要排水路整備が始まった。



まず水底の状態を調査。排水路は全長1500m、落差3.1m（傾斜約1/220）の激流。10年以上一緒に働いた作業員は動じず作業に挑む（2016年3月17日）



ガンベリ沙漠周辺排水路要図 橋と水門位置（2016年3月現在）  
 ガンベリ沙漠とシェイワ郡西部（回復湿地=約660ha、ガンベリ未開拓地=760ha）



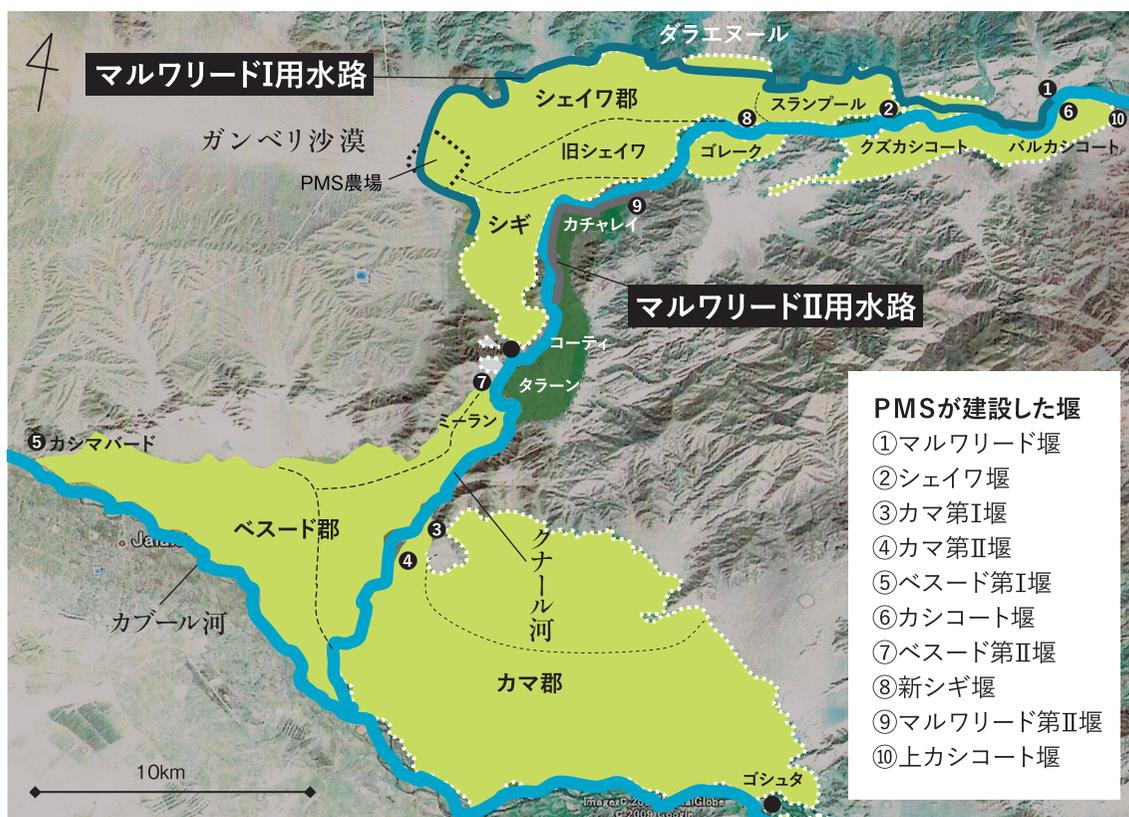
排水路幅は様々で柔らかい土質の場所が多い。土地の問題で排水路幅を広げない条件下、下手にやると両岸が崩落する恐れがある。水路床中央にU字溝を置き両岸にかかる掃流力を減殺させ根固め工と組み合わせる（2016年5月2日）



U字溝のモールド（型枠）や連結式ブロックは、PMSワークショップ（在ガンベリ農場）で作成する。①～③は連結式ブロック作成過程。④はU字溝のモールド作成



ガンベリ農業事務所と公園（2016年4月）



2020年までにPMSの水利事業で安定灌漑される予定地域

## 別表5 ミラーン堰対岸の灌漑計画（マルワリード第Ⅱ堰）

### 趣 旨

共同事業で完成しつつあるミラーン堰の対岸（クナル河左岸）には、四ヶ村に約3万人が居住する。同地はナンガラハル州の中でも辺地にあり、援助が行き届きにくい貧困地域である。同地域はクナル河左岸にあり、上流はカシコート地方（2014年・共同事業で取水堰建設）、下流はカマ地方（2012年・取水堰建設）に連続し、上下流約8kmのベルト地帯を成している。かつては耕地850ヘクタールを擁する大きな村落群であった。

しかし、近年頻発する夏の洪水や冬の低水位で取水・灌漑に困難が続き、次第に荒れていった。特に2010年、2013年、2015年と立て続けに起きた記録的な洪水で、耕地の約80%に相当する500ヘクタールを失い、一時は村民の大半が難民化した。

2015年の洪水では、分流が発生してクナル河を二分、下流にあるミラーン堰（現在PMSが建設中）の水量が激減して取水に困難を来している。取水方法にも問題があり、洪水流入と表土の流失を促し、近年の気候変動による河川の変化（洪水と極端な低水位）に適応できないと思われる。

同地の取水設備を整備して適切な護岸を行えば、難民化した村民の帰農を促し、同地4ヶ村の復興を約束すると共に、対岸（右岸）にあるミラーン堰、シギ村落の安定に大きく寄与することは疑いない。加えて、本事業ではこれまで培ってきた技術・経験が全て生かされ、人員の訓練の場を提供して、次の飛躍を期待できると思われる。

水はアフガン農民にとって生命線である。長引く戦乱に加え、気候変動による農地荒廃は、致命的な打撃を与えてきた。同地の復興によって、PMSが共同事業として実施してきた「緑の大地計画」が完成に近づき、以て東部アフガンで農村復興の範となることを期待する。

**用水路・堰の名称**；マルワリード第二堰（村落間抗争を避けるため、特定村落の名を冠せず）

**期間（第一期）**；2016年10月から2018年9月（2年間）

**場所**；クナル河左岸のカチャレイ、コーティ、タラーン、ベラ村落

シェイワ郡・ナンガラハル州・アフガニスタン国（12ページ地図参照）

**工事内容（第一期）**；

取水堰（石張り式斜め堰、堰幅約200m）

取水門（二重堰板方式、取水量2~5m<sup>3</sup>/秒）

主幹水路（ソイルセメント・ライニング、水路壁に柳枝工・ふとん籠工、全長4.9kmのうち、第一期・約1.7km）

沈砂池（送水門2、排水門1を備える）

護岸工事（根固め工を伴う連続堤防、全長8.4kmのうち約5km）

植樹（堤防沿い樹林帯）

**裨益人口**；約28,000名（同地域住民）、対岸の安定を入れると更に大きい。

**灌漑面積**；約850ヘクタール（既存耕作地を含む）

**設計者**；PMS（Peace Japan Medical Services）

**施工者**；PMS（Peace Japan Medical Services）

**推定総工費**；約7億円

**全建設後の観察期間**；5年間（2020年～2025年）、PMS現地の責任で実施

別表6 植樹総数(2003年3月から2016年3月まで)

種類	場所	2003~07年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年(3月まで)	合計
ヤナギ	用水路の両岸、河川工事	116,050	55,380	97,380	60,750	73,315	23,650	37,073	18,400	39,650	14,700	536,348
クワ	用水路土手	7,000	2,750	8,578	4,430	140	292	0	0	0	0	23,190
オリーブ	用水路土手、オリーブ園	2,000	0	840	0	0	0	1,424	1,275	240	136	5,915
ユーカリ	砂防林、護岸樹林帯	2,500	1,000	11,478	39,584	22,350	28,196	7,150	7,500	2,611	500	122,869
ピエラ	ガンベリ沙漠	0	300	600	1,165	165	2,083	175	75	0	0	4,563
紅柳	砂防林	0	15,100	71,300	14,356	9,887	22,317	3,573	780	265	0	137,578
シーシャム	護岸樹林帯	0	0	0	0	0	0	4,614	1,400	2,000	6,270	14,284
ポプラ	ガンベリ沙漠	0	0	0	4,900	10,786	1,850	0	220	0	0	17,756
イトスギ	モスク、学校、公園	0	0	0	60	195	300	0	0	0	110	665
果樹	ガンベリ果樹園	600	0	0	193	0	6,034	5,283	9,185	1,458	1,822	24,575
その他		0	0	0	132	190	412	144	50	26	0	954
		128,150	74,530	190,176	125,570	117,028	85,134	59,436	38,885	46,250	23,538	888,697

した。経済成長という怪しげな錬金術にすぎず、不老不死の夢を追い、自然現象まで科学技術で制御できるかのような進歩信仰は虚しく、人間の品性と知性は却って退化したようにさえ思われます。

ツケは既にきています。「テロとの戦い」は、世界中で宗教的偏見を煽り、狂気を呼び起こしました。アフガン報復爆撃から十六年、今国際世界は暴力化し、得体のしれぬテロの恐怖に脅えています。豊かさを求めて原子力に慄き、貪欲に富を求めてカネの下僕になっていくようです。GDPも防衛力も、恵みを語りません。「景気回復」は至福を約束しません。戦で死者は増えても、貧困と飢餓はなくなりません。

東部アフガンという辺境の一角で、世界の流行に惑わされず、ここまで来れたことに感謝します。今後も変わらず心ある人々と協力し、実のある歩みを続けていきたいと思えます。そのことが、次の時代を拓く確実な手がかりだと信ずるからです。

別表7 2015年度現地派遣ワーカー

	職種	断続的に現地滞在
1 石橋忠明	事務・会計現地連絡員	2014年2月～
2 鈴木祐治	事務・会計現地連絡員	2015年1月～2016年6月

温かいご協力により、無事に一年の歩みを経たことに感謝します。

平成二八年六月 記



中村 哲：九州大 医学部卒。専門は神経内科（現地では内科・外科もこなす）。国内の病院勤務を経て、

一九八四年パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州（旧北西辺境州）の州都ベシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをベシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始した。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保（井戸掘り・カレーズの復旧。作業地千六百余カ所以上）事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始、〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通した。ダラエヌール診療所の年間診療数四万二七二二人（二〇一五年度）。

# 2015年度の主な収支

期間 2015年4月～2016年3月

## 一般会計(単位:円)

### [収入の部]

1 会費・寄付	302,118,981 ①
2 補助金等	0
3 利息雑収入	2,882,473 ②
4 収益事業収入	2,527,020 ③
5 基金取崩	0
年度収入計	307,528,474
前年度繰越	62,229,395
収入計	369,757,869

## 収益事業会計

### [収入の部]

書籍売上	2,977,397
DVD売上	723,900
雑収入	2,836,613 ⑦
売上収入計	6,537,910

### [経費の部]

書籍等原価	2,825,812
販売費	402,478
事業所税等	782,600
経費合計	4,010,890
収益事業収入	2,527,020

## 「いのちの基金」残高

期首残高	470,000,000
一般会計から繰入	60,000,000
期末残高	530,000,000

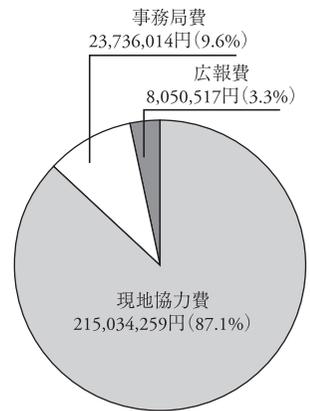
### [支出の部]

1 現地協力費	215,034,259
うちPMS運営費	0
アフガン事業費	199,884,989 ④
ワーカー費	456,594 ⑤
渡航費	6,866,420
国内活動費	7,826,256
2 広報費	8,050,517 ⑥
3 事務局費	23,736,014
年度支出計	246,820,790
基金への繰入	60,000,000
次年度繰越	62,937,079
支出計	369,757,869

- ① 会費・寄付(個人17,449件/団体634件)
- ② 利息・事務局移転補償金
- ③ (収益事業会計から)
- ④ 農業用灌漑用水路建設等
- ⑤ 現地支援ワーカー等
- ⑥ 会報印刷・送料等
- ⑦ カンター印刷・送料、送料へ合本売上、委託料

# '15年度会計報告

●2015年度事業額(支出ベース)  
246,820,790円



## 監査報告書

2015年度ペシャワール会会計については適正に会計処理がなされているものと認めます。

2016年6月2日 ペシャワール会 監事

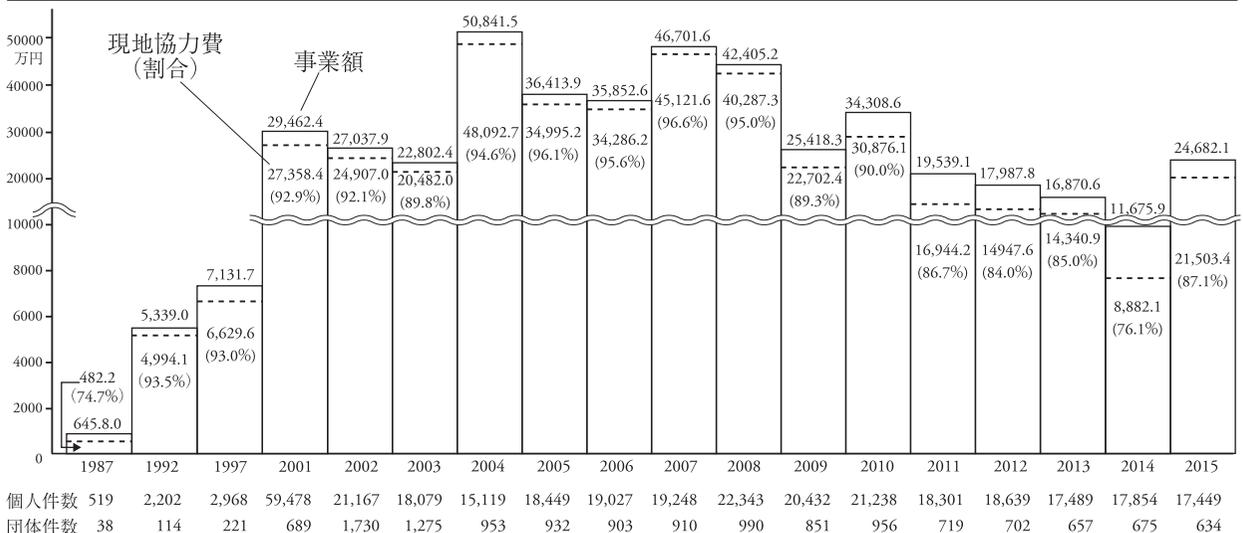
弁護士 美谷川 茂章

## 未使用切手、書き損じ葉書の寄付

寄付いただいた件数	859件
未使用切手枚数	22,874枚
同 金額	3,646,251円相当
書き損じ葉書枚数	27,153枚
同 金額	1,270,918円相当
合計金額	4,917,169円相当

\*会報発送費用に活用しています。

## 事業規模(会費・寄付件数、事業額)の推移 1987～2015(年度)



## ◎現地スタッフからの便り

機械整備工として十三年、

満足しています

PMS職員／機械整備工

ザイヌツラー

### 国境の町トルハムに井戸

PMSジャパン事務局御中

私はナンガラハル州ソルフロッド郡デーバロ村の住民スルタン・モハマッドの息子でザイヌツラーと申します。

二〇〇三年三月一日から車両・機械の機械整備工としてPMSで働いて来ました。私がPMSに勤務している時、深刻な旱魃が起きて飲料水や農業水が不足して大変な事態に陥り、すぐにも援助が必要な事態になりました。

その前の二〇〇〇年からPMSジャパンはナンガラハル州ガラエヌールに灌漑用井戸を掘りました。この事業は大きな成功を収め、小麦をはじめとする農作物栽培に農業用水を提供し、周辺の地域社会に多くの恩恵をもたらしました。

トルハムでの飲料用井戸の建設も我々が大きく貢献した有効なプロジェクトでした。トルハムはアフガニスタンとパキスタンの国境沿いにあり、何世紀にもわたって条件付きでパキスタン側から飲料用水が提供されてきました。PMSジャパンはトルハムに三本の井戸を掘り、私はPMSの機械整備工として、ガラエヌールの灌漑用井戸と同様に、この三本の井戸から水を汲み上げるための大型発電機を設置しました。幸いなことに、現在も国境の町トルハムでは住民がこの井戸を使い続けています。これらの井戸はすでにアフガニスタン中央政府とトルハム地方政府に移譲されています。

トルハムでの井戸建設中、手動式の小型クレーンから大きなスチール部品が落ちて、頭を負傷しました。私はパキスタン側ベシャワールのPMS病院に運ばれ、治療を受けました。その後、怪我は治癒し、今もPMS勤務を続けています。

機械整備工という仕事は大変な重労働で、私は背骨を痛め健康問題に悩んでいます。その時はベシャワールに行き自費で外科手術を受け、医師の勧めで一ヶ月入院治療を受けました。その後、PMSの仕事に復帰しました。



水車の製作者のザイヌツラー機械整備士（左端）。モノづくりが好きで職人で呑み込みが早く、仕事一途の稀な性格。写真を見て寸法を尋くだけで納得、改善を重ねて丈夫なものを作った（2013年12月22日）

### 高地の灌漑に揚水水車

マルワリード用水路は完成し三〇〇〇畝もの灌漑を可能にしましたが、用水路より高地にある約三〇〇〇ジェリブ（六〇〇畝）の土地は用水を利用できず、目の前を通る水路の恩恵を受けられずにいました。私は、何とかこれらの土地を灌漑出来ないものか、何か有効な技術を用いてこの問題を解決出来ないものか、と考えました。PMS上層部との協議の結果、用水路に揚水水車を設置することになりました。水車で水路

から三〜六メートルほど水を汲み上げることによって、高いところにある土地に何らかの費用もかけずに水を供給する事ができました。この水車は大変有効で、燃料なども不要です。私達はこれまで水車を二つ作りました。一つはカンレイ村にあり、もう一つはクナディ村にあり、順番制の灌水でそれぞれ七五〜一二五ゼリブ（一五〜二五秒）の土地を潤しています。現在、水車は両方とも良く機能しており、住民は燃料代など費用をかけることなく農地を灌漑することが出来ています。

私がこれまでにPMSで行った主な業務は以下の通りです。

- ・ PMSジャパンの車両・発電機をガイドラインに従って定期的に点検・修理。
- ・ ガイドラインには、機械および電気系統の全体的点検を含むとある（スプリング、ラバーブラシ、ギア、ギアボックスオイル、ブレーキ、クラッチ、ライト系統のチェック、エアフィルターのクリーニングなど）
- ・ 燃料およびオイルフィルターの交換、ゲリース、エアフィルターのクリーニングおよび交換
- ・ 運輸局の指導内容に従ってエンジンオイルを交換
- ・ 必要に応じて車のボディを交換。これにはPMSワークショップで行うものもある

れば、難しい場合はバザールに行き、我々の監督下で交換してもらう場合もある。点検修理毎に車両・発電機の帳簿に修理や部品交換を記録する。

・ 車両の機械的・電気的問題を運転手に伝え、必要な指示をする。

・ 現場から戻って来た車両等の点検や簡単な修理について、また一日の終わりにやるべき点検について、運転手たちに短時間トレーニングを行う

・ PMSの事務所とゲストハウスにある発電機の保全・点検・修理

・ 必要時の発電機始動と燃料充填

・ 発電機を操作する職員へのアドバイス

・ PMS事務所とスタッフハウスの電気系統の点検（週一回）

・ 必要に応じて新しい電気系統設備を設置する

・ 配水システムの保全

・ 貯水タンクへの水の補充

・ 貯水タンクの清掃―最低年に二回

・ 大掛かりな修理や経費がかかる修理の場合、事前にオフィスに伝える

私はPMSジャパンのシニア機械整備工になっておよそ十三年になります。PMSジャパンの職員との関係には大変満足しています。またPMSジャパンでシニア機械整備工として働いていることに、この上ない喜びを感じています。

敬具

サファル・バハエル！（良い旅を）  
23  
桑の実拾い、 甲斐大策

妹は、土手下で桑の実を拾い、口に含んだり掌に盛ったりしながら、甘くない、と不平を言いつつも楽しんで、姉は、砂糖黍食べたばかりだから仕方ない、それはここに、と手練った上着の裾を妹の掌へ向ける。

「動くな！ ジョラア……だ！」  
路肩近くにいた父アジ・ハーンの鋭い声に姉妹はその場で立ち竦む。土手の叢に一瞬、小さな静寂が生まれた。

アジ一族は一九世紀末、曽祖父の代、パンジャブからカールへ移住した、インド起源の部族の鍛冶職だった。アスマイル山麓に住まい、兼仕事場を構えて今日に到る。この半世紀、車の整備と軽便乗り合いタクシ業を営む。

五八歳の今日迄戦乱の日々、アジは、両親と自分達夫婦、長男夫婦、次男と二人の娘、近縁者二名、市中心で生きて全員健在なのはとてつもない神意、と深く信じている。昨秋、反対を振り切つて次男がドイツへの移住を試み、しかしトルゴで頓挫、アフガン難民と合流し先週帰国した。秋に行つて夏戻り、クチイの気分、と自嘲的な次男だったが、アジと家族は、ラマダン終盤の辛い日々がこの上ない吉事、と神に感謝したのだった。

禁慾の三十日が明け、泥土世界のあちこち貧富それぞれの婚礼が進む。この朝アジは、北三十km、パグマン山麓のカールカンでの婚礼にタジクの家族を送った。帰路を楽しいメラ（行楽）、とテルモスの茶と小口切りの砂糖黍を姉妹に持たせ同道していた。街道沿いに休める場を探すうち、桑並木の下で妹がはしゃぎ始める。そうしてその足元の叢で小さな軋みに似た音が、毒蜘蛛の攻撃音が、とアジは思い、しかしそれだけだった。

この国の近代化を象徴する桑並木の枝を揺すり、トラックの轟音と風が通過する。

アジも娘達に倣い、黒く熟した実を拾い口に抛りこんだ。

乾燥として人々の食糧となる。クチイには保存食の一つ。(1) ジョラア・ザアリイ、とも。小型の毒蜘蛛。攻撃前にスィーツと音を出す。

(2) 二十世紀初頭、アマヌッラー王がバリーを真似て植させた並木。(3)

## ◎ワーカー通信

子供の頃からの思いが、  
中村医師と出会い具体化

ベシャワール会事務局・PMS支援室職員

浦田 菖平

### 学生時代レイテ島でワークキャンプ

刻々とアフガニスタンに渡航する日が近づいてきております。数年前まではアフガニスタンに行くことになるなど微塵も思っていないませんでした。母曰く『いつか世界を見て回りたい』と小学生のときから言っていた『らしく、少しずつやりたいことが叶っているようで、当時の自分に伝えてあげたいと思います。

私は学生時代、フィリピン・レイテ島でのインフラ整備を主としてワークキャンプをする学生団体に所属していました。その団体では、村の自立活性化を目標とし、自分たちはその活動の中で、村人に直接ニーズを聞いて廻り、予算はいくら出せるか、

ホームステイはできるかななどを一から交渉し、村人と一緒に道を舗装したり、小さな橋を造ったりしていました。

「うわー、すげー」

大学3年生の時、中村先生の講演会の前でその団体として発表する機会があり、そのとき初めて中村先生の講演を聞きまし。美しい用水路や沙漠が緑に変わった写真、そして現地の人たちだけで修理ができるように工夫されていることに大きく感銘を受けました。現地の自立促進を目指している団体の理想と思える活動だったからです。現地の文化を尊重し、現地の人目線でのその仕事は、まさに自分たちが目標としていたもので規模もはるかに大きいものでした。「うわー、すげー」とあっけにとられていたことを覚えています。

その講演会の最後に中村先生が職員を募集していることを話しておられ、当時進路に迷っていたのでぼんやりとそのことを考えていると徐々に興味が湧いてきました。

今思えば、それが始まりだったのかもしれませんが。昔から海外で働くことに憧れもあ



ジャララバード事務所のジア医師、事務職員のサブールジャン、会計のエンジニア ハニフラとの定時連絡中。現地語パシュトゥー語のみの会話である。

り、考えたらいろいろ想像が膨らみ、気づいたら今に至っています。学生の中にはNGOで働きたいと思う人も少なくないと思います。その中で、機会を与えられた一人としてこの縁を大事にしたいと思っています。

カタコトのパシュトゥー語で

現在は現地会計を担当しています。予算

の使い方は現地の活動を顕著に表わすもので、そのとき何をやっているかをわかっていないと理解することができません。会計報告も様々な種類の報告書があり、理解するのも一苦労です。さらに現地のスタッフとは今まで聞いたこともなかったパシュトゥール語でこれらのことについてやりとりしなければいけません。

今、週に一回定期連絡として現地と電話で連絡を取っており、そこで会計について話すことも多いのですが、事前に準備しておいた自分のカタコトのパシュトゥール語でも職員たちは一生懸命聞いて答えてくれます。勉強することは山ほどありますが、一つずつできるようになっていきたいと思います。

この仕事の最も難しく最もやりがいのあ

る点は、現地の職員と一緒に、彼らができるように仕事をしていくという点です。現場での作業は熟練工と言われるように技術が浸透してきているようですが、事務の方はまだ全てを現地の人たちだけでできるとは言えません。これから広域拡大をするのであれば、その作業はより膨大なものになると思います。全体を考えると頭が追いつかなくなりそうですが、現地に滞在できる時間は年間を通して限られているので、まずは自分が仕事についてしっかりと理解をしてから、長い目で見て、どのようにしたら彼らが作業をしやすいかを考えていきます。

アフガンの水の味を思う

学生の時から考えていた「現地の自立」

## 医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む  
中村哲 用水路建設事業の7年をつづけた感動の記録 【5刷】1800円

辺境で診る辺境から見る 【5刷】1800円

医者 井戸を掘る 【12刷】1800円

医は国境を越えて 【7刷】2000円

ダラエ・ヌールへの道 【5刷】2000円

ペシャワールにて 【8刷】1800円

## アフガン農業支援奮闘記

高橋修・編著 2500円

## 聖愚者の物語

甲斐大策 1800円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24  
電話092(714)4838

## 人は愛するに足り、 真心は信ずるに足る

アフガンとの約束 2000円

中村哲／澤地久枝(聞き手)  
岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5  
電話03(5210)4000

## 天、共に在り

アフガニスタン三十年の闘い

中村哲 1600円

NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1  
電話03(3464)7311

価格はすべて本体価格(税別)です

### ■現地会計・事務職員を募集しています

勤務地：ペシャワール会事務局(福岡)及びアフガニスタン

応募資格：中村哲医師の現地活動に関心のある方／三〇歳以下の方(若年層の長期キャリア形成を図るため)  
※履歴書・志望動機書をペシャワール会事務局に郵送して下さい。

ということに少しでも携われることを嬉しく思いながら、まずは少しずつ、現地の職員と共にこつこつと励み、なにか一つ成せたときには一緒に喜びあえたらと思います。犬も歩けば棒に当たる。今自分は歩き始めたところなのかなと思います。ようやく歩き始められたのは、今まで支えてくれた家族、友人たちのおかげだと心から感じます。アフガニスタンはどんな空気なのだろう。どんな音がしてどんな水の味がするのだろう。彼らの手はどんな感触なのだろう。きつと直接肌で感じてみて初めてわかることも沢山あるでしょう。そんな好奇心と自分がどれだけ現地でできるか少々の不安を抱きながら、今できることを精一杯したいと思います。

## ●事務局長便り

\*熊本での地震発生から三カ月近くになりま  
す。復旧もままならぬ中、大雨や土砂災害が打  
ち続き、被災者の方々は大変な思いをしておら  
れることと存じます。熊本には、四〇〇人近い  
会員の方がいらっしやいます。それぞれ日常  
のくらしをとり戻すために、苦闘されているこ  
とも思います。一日でも早く平穏な日々の訪れ  
ることをお祈り致します。

\*アファガニスタン現地は、早急の進行と治安の  
悪化が止まることのない中で、「緑の大地計画」  
が、仕上げに向かつて着々と進められています。  
各灌漑施設は、頻発する洪水に対する補修とメ  
ンテナンスを繰り返しながら、強化されていき  
ます。本年度からは、最後の仕上げとも言うべ  
きミラン堰対岸の総合的な治水事業も始まり  
ます。灌漑システムの地域モデルの完成である  
と共に、アファガニスタン全土で灌漑事業を展開  
するための一歩が踏み出されるのです。

\*政府、国連との共同事業が始まる中で、関連  
する事務作業も膨大かつ緻密化してゆきます。  
現地事業体PMSを支えるために「現地連絡班」  
が「PMS支援室」として強化され、専従職員  
体制をとるようになりました。若い職員たちの  
エネルギーが、事務局の活性化も齎すことと期  
待されます。

\*現在、新しいDVD「アファガニスタン 用水  
路が運ぶ恵みと平和」(企画 ベシャワール会  
/制作 日本電波ニュース/頒価二七〇〇円+  
税)を製作中です。二部構成で、本編「緑の大  
地計画の記録(二〇〇二〜二〇一五)」と技術  
編「PMSの灌漑方式」です。本編の朗読は、  
俳優の吉永小百合さんが担当して下さいまし  
た。「中村医師の現地活動を深く理解し、共感

した」というのが、ご協力の理由です。この秋  
に発売予定です。

## ●PMS支援室より

現地では、六月初旬からラマダン(断食)が始  
まった。PMSでは例年通りほんの少し勤務時  
間を短縮。支援室では毎週火曜にジャララパー  
ド事務所と連絡を取りあう。現地職員たちは毎  
回「ガルミー、ジャッド。バーラン ニシタ」と  
ても暑い。雨が降らない」と話し、福岡は雨だ  
と伝えると「デール ハエスタ」(とても素晴  
らしい)と言う。干ばつのアファガニスタン、梅  
雨時期の日本とのやり取りである。

## ◎村から

\*ベシャワール会のお手伝いをするようになって  
ちよつと二年になります。二年前、九大椎木  
講堂で中村先生のご講演を拝聴し、深い感銘を  
受け、ボランティアを始めることになりました。  
異文化、過酷な気候等、そこで幾度となく起こ  
る困難な状況に立ち向かう中村先生の不屈の精  
神に心打たれました。事務局の皆様も肅々とそ  
して和気藹々とそれぞれの作業を進めていま  
す。アファガンの方々の生活が少しでも良くなる  
ように、平穏になりますようにとの思い、ご協  
力して頂いた方々に感謝の気持ちを込めてボラ  
ンティア活動に取組んでおります。(IH)

\*中村医師とは、高校時代、同じ教室で学んだ  
ことから、著書を読むこともあり、その都度心  
を揺さぶられた記憶があります。退職してか  
ら、何か社会に対して少しでもお役に立てるこ  
とを、と考えた時、ベシャワール会しかない  
と確信しました。昔から知り合いだった方に事務  
局で再会したり、心優しい方々とひとつの机で  
作業することの喜びを感じて、事務局に行く日  
は朝から心温かいです。(SH)

## 会 則

①本会の名称をベシャワール会とする。  
②本会は、中村哲医師のパキスタン北西  
辺境州ならびにアファガニスタンでの医療  
活動などを支援し、必要な情宣・募金活  
動とともにワーカーの派遣を行うことを  
目的とする。

③本会は、思想・信条にとらわれず、「支  
え合い」の精神で一致して会を運営する。

④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員  
一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円  
の年会費を納入する。

⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創  
意工夫して自由なやり方で支援活動を行  
う。

⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活  
動を報告する。

⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、  
会の運営を行う。

⑧毎年一回総会を開き、事業および会計  
について報告する。

⑨本会の事務局をFARAHOUSE  
(〒八一〇〇〇二三 福岡市中央区警  
固二一―一七 ハイツみかげ八〇三号  
TEL〇九二―七三―二三七二)内におく。

総会、現地報告会は、原則として毎年六  
月第一土曜日に開催いたします。